

令和5年度授業改善推進プランの評価

[成果] ゲームや歌の活動を中心に外国語に親しみをもつことができた。

アルファベットを書いたり、英単語を写したりする活動を通し、基礎的な事項が身に付いた。

中学年以上のタイピング能力にも繋がっている。

[課題] 英語カフェなど授業時間外で英語に触れられる機会を設定したが、参加率は低い。単語や文章を、実際に声に出したり、対話をしたりすることに対しては消極的な児童がいる。

実態

活動に楽しみながら取り組んでおり、外国語に対する親しみをもっている。ゲームなどの活動やタブレットを利用したプレゼンテーションの時間など楽しみながら学習を進める児童が多い。一方で、単語や文章を声に出して発表するような場面では、消極的な児童もいる。

指導上の課題

- ・低学年は外国語の回数が少ない(年間8回)ため、外国語にふれる機会が不足している。
- ・ALTの発音やデジタル教材の音声などを意欲的に聞こうとする児童が多い一方で、基礎的な言語能力に差があり、理解につながらない児童も多い。
- ・ALTからの英語の問いかけに英語が得意な児童はすすんで答えている反面、英語が苦手な児童は得意な児童に任せてしまい、習熟に結びつかないことがある。

令和6年度の具体的授業改善

低学年	中学年	高学年
<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語に親しみをもてるように、ゲームや歌など遊び感覚で取り組める活動を多く入れる。</li> <li>・英語カフェなど、授業時間外でも外国語にふれることができる機会を周知し、積極的に参加できるようにしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や家庭学習などで、アルファベットを書いたり、英単語を写したりする活動を繰り返し行い、文字に親しむと同時に、基礎的な学習事項が身に付けられるようにする。</li> <li>・ALTとの関わり合いを通して、音声やリズムに慣れ親しませ、単語の意味や日本語との違いについて分かるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションを取る活動の際には、少人数で行い、なるべく多くの児童に発言の機会があるようにする。</li> <li>・学習形態をパターン化させることや、単語や表現の仕方を繰り返し練習することで、一人一人が自信をもって活動できるようにする。</li> <li>・学習者用デジタル教科書を活用した全体指導と個別指導を行い、児童が自分の実態に応じた学習を進められるようにする。</li> </ul>